

生きるということ ～ 12月是人権月間です～

1日の朝会で、子どもたちに紹介するお話です。

「たすけ合って 生きる」

地球上では、みんなが たすけ合って 生きています。

みなさんには 何をするにも、だれとでも なかよく いっしょにして、また、人のために何ができるかを いつも考えて、よいことを 行ってほしいのです。

あなたは、「いのち」をもっています。でも、体の中のどこに いのちがあるのかと 聞かされると、なかなか 答えられないでしょう。

(中略)

あなたが もっている時間、あなたが 自分で つかえる時間。それが、あなたの いのちなのです。

その いのち、あなたの つかえる 時間と いういのちを、これからは、人のためにも つかって みようかなと、考えて みませんか。

いのちを 自分の ためだけに つかわないで、人のためにも つかうこと、それが あなたの いのちを 本当に つかうと いうことに なるのです。そのことを あなたに しっかり 考えて ほしいのです。

この話は、100歳を過ぎても医師として活躍され、今年の7月に亡くなられた医学博士 日野原 重明氏が1・2年生の子どもたちに向けて書かれお話です。(わたしたちの道徳 1・2年)この話をもとに、1年生から6年生まで、一人一人が自分なりにどう生きるのか、自分の時間をどう使うのかということを考えてみてほしいと思っています。

さて、

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」当てはまる…81.2%

これは、平成29年度全国学力・学習状況調査の児童質問紙の問いに答えた本校6年生児童の割合で、京都府や全国と比べると大変高い数値です。「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童を合わせると、95.1%にもなります。この傾向は、昨年度も見られ、西京極中学校でも同様の傾向が見られるそうです。きっと、西京極の地域が温かく、家庭でも地域でも自分の時間を人のためや社会のために使っておられる大人の姿を子どもたちが見ているからでしょう。子どもたちには、将来にわたって自他の命を大切に作る人になってほしいと願っています。そして、なりたいたい自分の姿を明確にイメージして、そのために自分の時間をどう使うのかをしっかりと考え、粘り強く努力できるよう、学校だけでなく地域全体で応援していただきますよう、これからもよろしくお願いいたします。

校長 今村 ひろみ